

2月14日(火) インターシティ・ミーティング

講演要旨 テーマ 「好奇心は人生の栄養」

竹田真砂子

最近、子どもさん達の好奇心が薄れているように思っていたのですが、2年前、中学3年生のお嬢さんが書いた論文「吊うということ」に出会い、それが杞憂であったことを知りました。誰にでも平等に訪れるにも拘わらず、だれも体験したことのない『死』と真正面から向き合い、客観的にその実態を探るということに挑戦しました。彼女の文章からはディズニーランドのアトラクションへの期待にも似た好奇心が感じられます。さらに時代も世代も超えた江戸時代の洒落者、太田南畝も好奇心を持ち続けた一生だったといえます。

直参の下級武士ながら幼いころから神童といわれ、十代ですでに先生とよばれていた南畝は森羅万象に興味をもち、見聞くことを片端からメモしていました。そのメモは現在、貴重な資料として各方面の研究に役立てられています。好奇心には年齢制限がありません。心への栄養補給をお忘れなく、豊かな人生をお過ごしくださいますように。